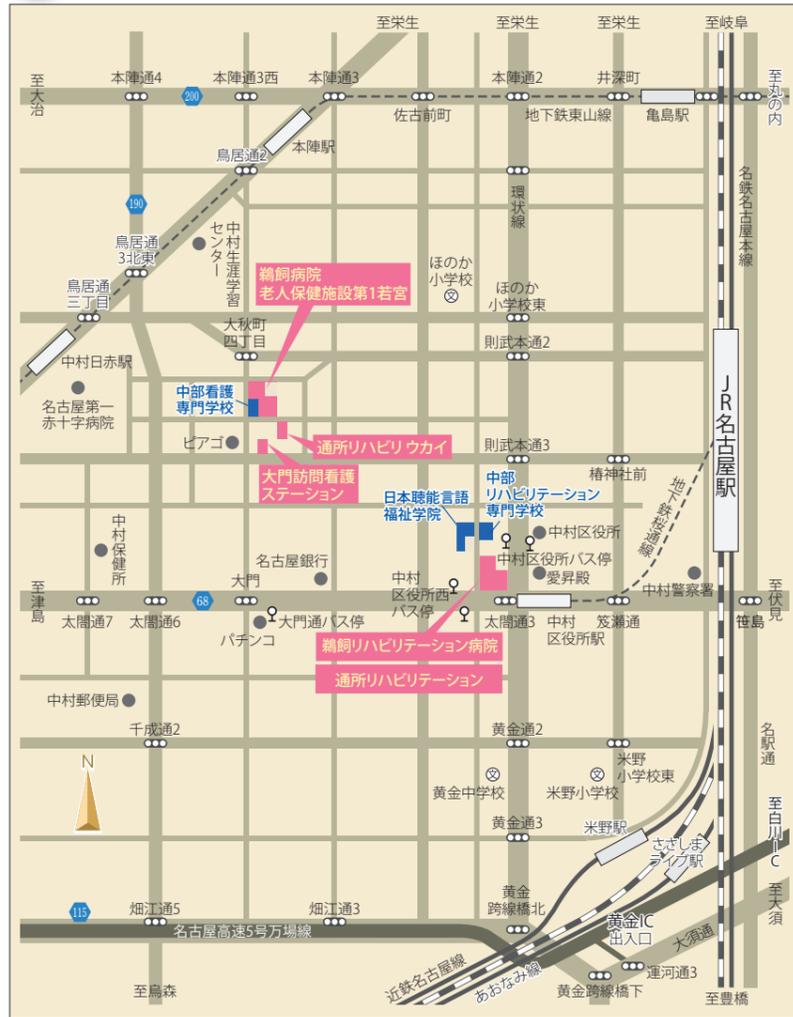


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車……………徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約5分



当院は、  
医療機能評価  
認定病院です。

医療法人 珪山会  
**鵜飼リハビリテーション病院**

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1  
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231  
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える  
珪山会グループ

**鵜飼 病院**  
TEL 052-461-3131  
FAX 052-461-3136  
名古屋市中村区寿町30

**老人保健施設 第1若宮**  
TEL 052-461-3175  
FAX 052-461-3136  
名古屋市中村区寿町30

**鵜飼リハビリテーション病院**  
TEL 052-461-3132  
FAX 052-461-3231  
名古屋市中村区太閤通4-1

**通所リハビリテーション**  
TEL 052-461-3237  
FAX 052-461-3238  
名古屋市中村区太閤通4-1

**通所リハビリウカイ**  
TEL 052-461-9195  
FAX 052-461-3107  
名古屋市中村区寿町6-1

**大門訪問看護ステーション**  
TEL 052-471-2533  
FAX 052-485-9702  
名古屋市中村区大門町30

**中部リハビリテーション専門学校**  
TEL 052-461-1677  
FAX 052-471-2333  
名古屋市中村区若宮町2-2  
<http://www.chureha.kzan.jp/>

**中部看護専門学校**  
TEL 052-461-3133  
FAX 052-483-0873  
名古屋市中村区寿町29  
<http://kango.kzan.jp/>

**日本聴能言語福祉学院**  
TEL 052-482-8788  
FAX 052-471-8703  
名古屋市中村区若宮町2-14  
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院  
ハートフル情報誌  
ReHappy!  
Vol.72

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

# ReHappy!

リハッピー

Vol.72

発行人/鵜飼泰光  
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
名古屋市中村区太閤通4-1  
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>  
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
編集グループ  
編集協力/プロジェクトリンク事務局  
発行/令和2年7月1日

【特集】

地道な積み重ねで  
褥瘡をつくらない。



医療法人 珪山会  
**鵜飼リハビリテーション病院**

# 地道な積み重ねで褥瘡をつくらない。

鶴飼リハビリテーション病院では、創立当初から「褥瘡対策委員会」を組織し、病院全体で活動してきた。その名称を「褥瘡予防委員会」へ変更したのは、2012年のこと。以来、できた褥瘡を治すのではなく、〈褥瘡をつくらない〉を目標に掲げ、地道な、しかし、確かな歩みを積み重ねてきた。今回のReHappy!は、患者さんが快適な入院生活を送り、スムーズにご自宅に戻れるよう、日々、褥瘡予防に取り組むスタッフたち取材した。



医師 津金慎一郎

## 多職種で病棟をまわり、患者さんの座る姿勢をチェック。

褥瘡（じょくそう）とは、床ずれのこと。同じ姿勢で長くいると、ある部分に圧力がかかり、血流が低下。皮膚の組織がもろくなって赤くなったり、破れたりする。さらに悪化すると皮膚がただれ、えぐれることもある。



鶴飼リハビリテーション病院では、入院患者さんの褥瘡を防ぐため、月に1回、褥瘡予防委員会を開催。メンバーが集まって、褥瘡リスクのある患者さんへの対応を

検討し、病棟ラウンド（巡回）を行っている。委員会のメンバーは、医師、看護師（看護師長1名と各病棟から2名ずつ）、理学療法士、作業療法士、栄養士の計11名だ。委員会の取り組みについて委員長の津金慎一郎医師は次のように語る。「褥瘡予防委員会では、瘦せている、栄養状態が悪い、正しい姿勢で座れない、自分で寝返りができないなど、褥瘡になりやすい患者さんの情報を共有し、それぞれに合った予防法を検討しています。また、検討後は全病棟をまわり、患者さんの座る姿勢などをチェック。問題があれば病棟スタッフに改善を促します。たとえば、浅座りは褥瘡リスクの高い姿勢です。浅座りになると、お尻の仙骨部に圧力がかかり、褥瘡ができやすくなるため、委員会メンバーが正しい姿勢を指導し、必要に応じて、クッションの使用や車いすの変更などを提案します」。

さらに、褥瘡予防委員会では、入院中に褥瘡ができてしまった人、褥瘡を持って急性期病院から転院してきた人たちの情報もすべて洗い出し、それぞれの回復具合も確認している。「脳卒中や骨折の治

療を終えた転院患者さんのなかには、急性期治療期間中に褥瘡ができ、そのまま当院に移って来られる方もいらっしゃいます。一般的に〈持ち込み褥瘡〉と呼んだりもしますが、そういう方が入院されると私たち医師が状態を確認し、必要な場合には血流の悪い組織を取り除く処置や切開を行います。そして、塗り薬の効果、栄養状態などを細かくチェックしながら経過観察を続けていくのです」と、津金は説明する。

## 院内の褥瘡発生件数は年間1桁台まで減少。

褥瘡予防委員会の活動は、こうした月1回の会議やラウンドだけではない。病棟から褥瘡に関する介入の依頼があれば、その都度出向いてアドバイスをを行い、褥瘡に対する正しい知識を職員に周知するため、入職時の研修や勉強会なども行っている。「褥瘡は、お尻、足のつけ根、肩甲骨、太もも



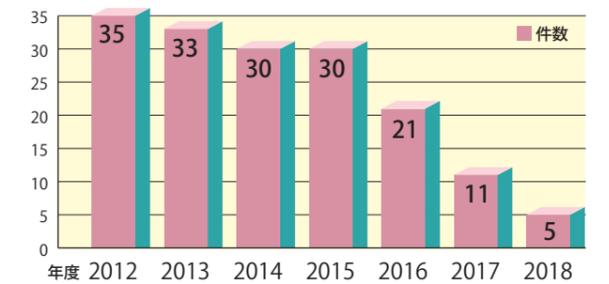
などいろいろな部位にできます。職員全員が、普段からそうした部位の圧を意識できるよう指導しています」と津金。さらに津金医師が中心となり褥瘡に関する最新の薬や医療材料などを導入することもあるという。「学会や文献を通じ情報収集していますが、褥瘡には、何か画期的な予防法や治療法があるわけではありません。基本は、日々の観察と予防をコツコツと積み重ねることです。当院でも、こうした地道な取り組みの成果で、入院患者さんの褥瘡はかなり減ってきたように感じています」。

その津金の実感は、実際数字に表れている。2012年度には35件発生していた2度（※）以上の褥瘡が、2018年度には5件まで減少しているのだ（右上表参照）。その理由について、褥瘡予防委員会の坂口まなみ（3階病棟・看護師長）は次のように考察する。「一つは、座位姿勢の取り組みを強化したことが大きいですね。

その津金の実感は、実際数字に表れている。2012年度には35件発生していた2度（※）以上の褥瘡が、2018年度には5件まで減少しているのだ（右上表参照）。

その理由について、褥瘡予防委員会の坂口まなみ（3階病棟・看護師長）は次のように考察する。「一つは、座位姿勢の取り組みを強化したことが大きいですね。

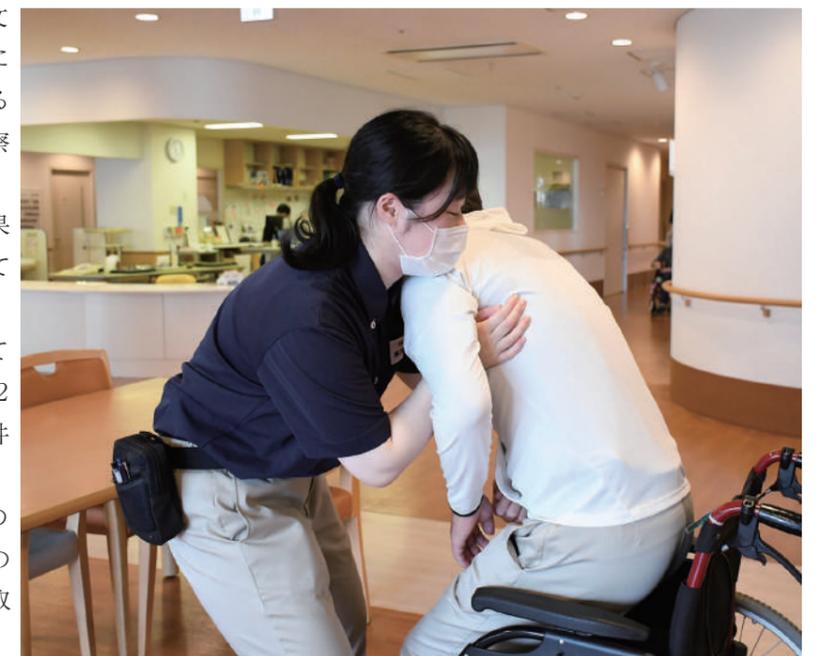
■褥瘡2度以上の年間発生件数（鶴飼リハビリテーション病院）



以前は寝ているときの褥瘡対策がメインでしたが、それでは褥瘡の発生件数はなかなか減りませんでした。そこで、現在のように多職種で病棟をラウンドして、座る姿勢の指導に力を入れるようになったのです。また、2015年頃から食堂系の職員がタイマーを持って、30分ごとに座っている患者さんの体圧分散を呼びかけるようにしたことも効果的でした。車いすなどに長時間同じ姿勢で座り続けると、どうしても褥瘡ができやすくなります。そのため、自分で姿勢を変えられない患者さんは職員がサポートしながら、定期的に姿勢を変えるようにしているのです」。※皮が破れ、浅い潰瘍ができた状態。

## 褥瘡をつくらないことを当たり前にしたい。

褥瘡の年間発生件数は、1桁まで減少した。しかし、「褥瘡ゼロを、当たり前になくしてはいけない」と、坂口は高みをめざす。「回復期リハビリテーション病院である当院は、患者さんにどんどん動いていただき、日常生活動作能力を高めていくところです。褥瘡ができるというこ





マットレスのクオリティが非常に高くなっています。いい道具は積極的に取り入れ、必要に応じてご家族にも提案しています」と、坂口は話す。

褥瘡対策として、高機能エアマットレスなどの福祉機器が必要になる場合、褥瘡委員会のメンバーは、院内のテクノエイド委員会

(詳細は5ページ参照)と連携しながら導入の検討を進めていく。テクノエイド委員会の比和野友美(作業療法士)は、次のように話す。「自分で寝返りを打てない方は、退院後もエアマットレスを使うことが望ましいです。患者さん本人の褥瘡予防はもちろん、ご家族にとっても、夜中数時間おきに体位交換をするのは、大きな介護負担になるからです。但し、エアマットレスにもいくつかの種類があります。私たちは、褥瘡予防委員会のメンバーとも相談しながら、在宅で使うエアマットレスを想定し、まずはそれに近い機能のエアマットレスを入院中に試していただくようにしていますね」。



作業療法士 比和野友美

最後に津金はこう締めくくった。「褥瘡予防委員会の活動は、その名の通り褥瘡を予防することです。そのためには、とにかく院内のすべてのスタッフが、地道な活動を弛まず続けていくことしかありません。当院では、これからも患者さんの快適な入院生活とスムーズな在宅復帰をめざし、一步一步、着実に活動を積み重ねていきたいと思っています」。

とは、それだけ動けていないということ。スタッフにとって褥瘡を防げなかったというのは恥なのです」。

では、褥瘡をさらに減らしていくには、どんな取り組みが必要だろうか。「鍵をにぎるのは、看護師やセラピストの観察ときめ細かいケアだと思います」と坂口。「日中は座って過ごされる患者さんが多いので、正しい姿勢で座れているか、長時間同じ姿勢になっていないかを観察することが大切です。夜間は、自分で寝返りできない患者さんの体の向きを、看護師が数時間ごとにきちんと変えることで、褥瘡を防いでいかなければなりません」。

小さな褥瘡は、数時間同じ姿勢でいるだけでもできることがある。また、本人が気づかないうちに、褥瘡ができることもあるという。それだけに、患者さんに寄り添うスタッフの観察眼や気配りは重要だ。昼間、夜間を問わず患者さんの観察を続け、体圧分散に努める。その地道な取り組みの先で、ようやく褥瘡予防は実現するのだ。「平常時の褥瘡対策はかなり良くなったと思います。ただ、患者さんに発熱などがあると、ついそのケアに集中し、褥瘡への意識が薄まることがあります。どんな状態でも褥瘡への配慮を欠かさず、そんな高い意識をすべての看護師が持てるようにしていきたいと思っています」と坂口は話す。

### 褥瘡予防のノウハウを退院後の在宅療養へ。

鶴飼リハビリテーション病院の褥瘡予防は、患者さんが退院する日まで気を緩めることなく続けられ、最終的には、在宅療養へと引き継がれる。たとえば、褥瘡予防のための福祉機器の提案もその一つだ。

「近年、体圧分散クッションや高機能エア



# For the Best Rehabilitation

## Topic 1

### 患者さんの褥瘡リスクを、点数でわかりやすく評価。

鶴飼リハビリテーション病院では、「褥瘡危険要因点数表(全患者版)OHスケール」を用いて、入院患者さんの褥瘡リスクを判定している。OHスケールは、対象者がどれくらい褥瘡になりやすいかを示す基準として、医療・

#### ■褥瘡危険要因点数表(全患者版)OHスケール

危険要因		点数
自力体位変換	できる	0点
	どちらでもない	1.5点
	できない	3点
病的骨突出	なし	0点
	軽度・中等度	1.5点
	高度	3点
浮腫	なし	0点
	あり	3点
関節拘縮	なし	0点
	あり	1点

介護現場で広く採用されているもの。同院では、ここからわかる危険度に応じて、看護計画を立てると同時に、体圧分散クッションや高機能エアマットレスの導入などを検討している。

また、入院中にできてしまった褥瘡や持ち込み褥瘡については、褥瘡のステージ分類で重症度を評価し、適切な治療に繋げている。傷が浅い場合は、消毒、洗浄、塗り薬で治療。傷が深く膿が出ている場合などは、その部分を切開し、壊死した組織を切除している。

#### ■褥瘡のステージ分類(NPUAP分類)

ステージ	症状
I	紅斑(押しても白くならない状態)
II	創が皮膚真皮にいたるもの
III	創が皮膚脂肪にいたるもの
IV	創が骨、筋膜にいたるもの

## Topic 2

### 褥瘡予防委員会と連携して活動するテクノエイド委員会。

鶴飼リハビリテーション病院では、福祉機器の専門委員会として、理学療法士2名、作業療法士1名で構成される「テクノエイド委員会」を組織し、福祉機器の導入から使い方の指導、管理までを行っている。

たとえば、褥瘡予防に関わる領域でいえば、高機能エアマットレスの使用法の説明や、導入に関する助言などだ。同委員会の比和野友美(作業療法士)は次のように話す。「以前、当院ではエアマットレスを購入して使っていましたが、現在はレンタルに切り替え、常に最新の高機能エアマットレスを使えるようになりました。私たち委員会のメンバーは、こうした機器をただ紹介するだけでなく、導入の是非やタイミングなどについて、病棟スタッフと一緒に検討します。高機能エアマットレスについても、褥瘡対策に効果があるからといって、安易に導入は勧めません。ふわふわすることで体が緊張してしまう患者さんもいらっしゃいますし、通常のマットレスよりも柔らかく、立ち上がりや起き上がりが難しいため、ADL回復の妨げになることもあるからです」。

その他、同委員会では、介護リフトやトランスファーボード(車いすからの移乗をサポートする板)、ターンテーブル(体の向きを変える回転座面)などの福祉機器を取り扱い、それらに関するスタッフの理解を深めるために、年2回、全職員を対象にした勉強会も開催している。



「新しい福祉機器がいろいろ開発されていますから、どんどんスタッフに紹介していきたいです。もちろん、良い機器を入れても、使いこなせなくては意味がありませんので、使い方に関するサポートにもさらに力を入れていきたいと思っています」と、比和野は抱負を語る。

珪山会  
グループからの  
お知らせ

# Support Party!



## 鵜飼病院

地域に密着した病院として、  
患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



### 施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

## 鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、  
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

### 施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00  
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

## 通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと  
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



### 施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月～金曜日  
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30  
午後 13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
  - 健康状態の確認（メディカルチェック） など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

## 老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が  
職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑

顔が、職員の励みになっています。これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

### 施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方  
ご利用日：月～土曜日  
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

- 理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション
- 日常生活の援助  
（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）
- 在宅生活における各種相談

## 大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。  
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



### 施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00  
（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。  
※看護師の24時間対応。